

9月スタート

久しぶりに学校に子どもたちの元気な声がこだまします。長い夏休み、子どもたちはいろいろな経験を積んで一回りも、二回りも成長していることでしょう。休み期間中、保護者、地域の皆様方にはいろいろとお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

学校は、東校舎の外壁補修、塗装工事も終了し、外観は大変美しくなりました。次年度には中校舎、西校舎も同じようになればと工事の継続に期待をしています。

さて、「教育再生」とか「学校改革」とかが叫ばれている今日ですが、教育は子どもとしっかり向き合うことが肝要。また授業力向上が教師の最大の責務と自覚し、確かな学力、豊かな心の育成に向け、これからもみんなで頑張ります。よろしくお願ひいたします。

あいさつ100%のさらなる推進を

連日の猛暑の中で繰り広げられた夏の全国高校野球大会。広島県代表の広陵高校の大活躍は私たちに大きな感動を与えてくれました。

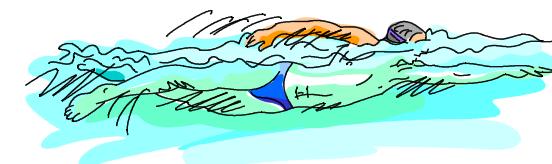
広陵高校野球部は「感謝」の気持ちをモットーにして日々の練習に取り組んでいるとのこと。監督やコーチから厳しい叱責を受けたときも、「すみません」とか「ごめんなさい」とかは言いません。「ありがとうございます」と言うのです。僚生活している部員は食事のときには、食事を作ってくださいる方たちに感謝の念を、自分で洗濯をするときには、改めて親の有り難さ、感謝の念を強く持つのだそうです。「野球をとおして人として一番大切なことを教える」という指導方針に感銘を受けました。

船越小学校が推進している「あいさつ100%運動」も、人を大事にしよう、よりよい人間関係をつくろう、周囲の人への感謝の気持ちを大切にしよう、という精神が基盤にあります。このようなことを意識させつつこれからもあいさつ100%を推進していきたいと思ひます。

消しゴムで 消せない一言 その重さ 船越小6年 上田光広

広島市市民局人権啓発部発行の広報誌に人権標語の入賞作品として掲載されました。5, 6年全児童が人権について考え、一人一人の思ひを標語で表現しました。このことに大きな意義を感じています。

広島市児童水泳記録会



8月4日(土)にビッグウエーブで広島市児童水泳記録会が開催されました。

本校からは、左記の児童12人が出場しました。立派な会場で、大勢の観客が見守る中での記録会です。電光掲示板に名前、学校名が、場内アナウンスとともに紹介されます。さぞかし緊張したことと思ひますが、参加選手全員が練習の成果を発揮し、自己記録更新というすばらしいがんばりを見せました。

この経験は子どもたちに大きな自信をもたらせたことでしょう。

50M 自由形			
5年	木下 周作 上垣内 孝 小迫 優実	6年	勢越 大樹 渡邊 徳人 荒谷 真奈 鳥井原彩香
50M 平泳ぎ			
5年	元重 良明 築地 健斗 平野 里佳 大本 佳奈	6年	春名 雄大

聞くことについて考える

（「親は子に何を教えるべきか」外山滋比古著）
むかし中学校の英語の時間にリスン・トゥという語の説明をきいておもしろいと思つた。ヒアというのははふつうの「聞く」であり、リスン・トゥは耳をかたむけて「よく聞く」となる。リスン・トゥ・ミーなら「私の言うことを間違えないようによく聞いてください」だ。

「聞く」にふた通りあるのが珍しかった。もちろん、ヒアだつて、いい加減にきいてよいというのではないが、ことによく聞くという必用があつて、リスンが使われるのである。全身を耳にして聞け」という大げさな言いまわしの英文にぶつかつたこともある。

どうも英語では日本語よりも「聞く」ことを重んじているようだ。・・・略

（日本人は）ふたりで話していても、相手の言っていることばなんかあんまり気にしていない。この人の腹はどうなんだろう。調子のいいことを言つてはいるが、案外、ひどいことを考えているのかもしれない。だとすると、うっかり乗せられない用心がかんじんだ。・・・などと頭を働かせる。

だから、たえず誤解がおこる。言つたの、言わなかつたの騒ぎになる。相手のことばを自分勝手にホンヤクしたり、着色したりして、それを相手のことばだと思ひこむ。始末がわるい。・・・略

本校では、対話力の育成に力を入れており、「聞く」ことを大変重視しております。きくには「聞く」「聴く」「訊く」の三段階があり、英語ではヒア リスン・トゥ アスクと対応します。質問できる訊き方こそ、真のきく力と捉えています。

「聞く子はよい子」「聞く子は伸びる」と言ひます。まずは、聞く態度から育てていきましよう。